’08 のべおか
第九

のべおか第九だより（第419号）
2008年10月12日 (日)

○発行　のべおか「第九」を歌う会
○事務局（延岡総合文化センター内）
〒882-0852 延岡市東浜砂町611-2
電話 (0982)22-1855
http://www.horita.jp/dai-9.html

---- 出席カードには会員番号を。練習中のケイタイ着信音はオフに。----

本日の内容
聖夜（アンコール曲）を覚える。
○ A (237～330小節) p.9～18
○ B (411～654小節) p.21～35
○ C (655～762小節) p.35～47
○ D (795～920小節) p.50～63
○　合唱幻想曲
12月13日まであと**62**日

前回の状況	会員数	出席数	出席率	自己採点
♦ ソプラノ	24 人	16 人	66.7%	54.6 点
♥ アルト	53 人	40 人	75.5%	68.7 点
♣ テノール	24 人	14 人	58.3%	60.0 点
♠ バス	25 人	16 人	64.0%	72.8 点
● 合計	127 人	86 人	67.7%	65.5 点

@長井則文先生の指導　（11月5日：合唱幻想曲）

その付近の注意…●総合・♦ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♤バス
★…お話
（ドイツ語ウムラウトの発音“ö”をカタカナで“ォ”と表記してあります。また、ほかの部分やパートの注意でも全体に関連がありますので、読み飛ばさないようにお願いします。）

★ 443 【お話し】コーラス部分は簡単で、はやい話がソプラノがメロディを99%歌ってて、ほかのパートがそれに和音をくっつけてる…。「第九」はそんなことはないでしょ？“Seid um-…”と“Freu-de, schö-ner…”の部分、フーガになってそれぞれのパートにテーマが来ますけど、Fantasieは縦の言葉がほとんどが揃っている。フーガみたいにならないから、逆にごまかしがきかない。皆さんが全員ピタッと子音の場所とかが揃っていないとすぐバレてします。

○ 444 【Gro - ßes,】 ここ、歌い出すときはソリストが歌っていてそれを引き継ぎますよね。それまで自分たちは歌っていません。ソリストが“…Licht ent-stehn.”とそういうふうにきます。直前まで自分たちの出番をこうやって待ってると、準備が不足します。“…グロォー”ってなっちゃいます。“グロォー”という発音はハッと思って息を吸ってたんじゃ僕のやってみせた表現はできませんよね。“Gro - ßes,”というのはデカいという意味です。“大きい”という意味ですからね。“Freu-de, schö-ner Göt-ter-fun-ken,…”と同じ。それぐらい欲しい。

● 447 【neu und schön em -〜】 “Freu-de, schö-ner Göt-ter-fun-ken,…”という歌詞が「第九」にありますね。その“schöner”も“Götter-”も両方出てくる。“schön em -”は“シェーネン”じゃなくて“シォ(=ö)ーネン”。“シェーン…”つったら西部劇の主人公ですよ（笑）。活字が“o”じゃないですか。それにちょんちょんが付いてる。“e”じゃない。

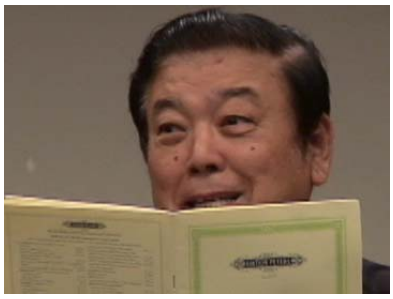
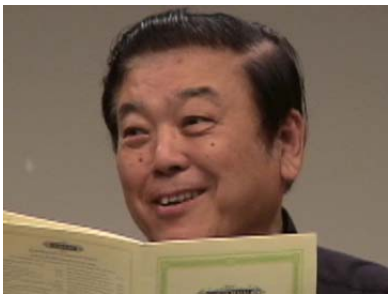
○ 450 【schwun - gen. halt ihm】 跳ねてもらいたい言葉、“schwun -”。

○ 452 【chor. Nehmt denn】 “denn”を“ディン”と言っている人がいる。“デン”! “いったい何だ”という“いったい…”。それは前の“ニムトゥ”の発音が影響をしているんです。その“ニ…”という口の形がつながっちゃうんです。“ニムトゥ デン”。

○ 453 【hin, ihr schö - nen】 “schö-nen”は“シェーネン”じゃなく“シォ(=ö)ーネン”。“schö-nen See - len,”は“美しい魂”。心を込めて、ここは跳ねない、般若心経にならない。

○ 457 【Lieb’ und Kraft ver -】 “Lieb'”、“Kraft”。“Lieb'”は長くして“Kraft”は短く発音して。みんな般若心経のように同じ長さにしないで。……“Kraft”もっと、パワー、パワー!

○ 459 【Men - schen Göt - ter -】 “Göt-ter-”は“ゲェッテル”じゃなく“ゲォ(=ö)ッテル”。口の形は“オ”で口の中で“エ”。みなさんのは口も“エ”で発音も“エ”なんだ。それじゃ“エ”に聞こえるね。

★ 460 【お話し】…（ここまで歌って）…私はこういう曲を指導するときにいつも言ってる。「皆さんのは般若心経だよ」と。意味はわかって歌ってないんですよね。「意味わかってる?」って聞くとわかってるというんですよ。「そこ、何ていってるの?」と聞くと読み始めるんですよね、訳を。歌詞のところからズレて欄外に訳が書いてあるのか（笑）、それじゃわかったことにはならないんですよね。たとえば“I am a boy”という歌詞があって、訳が必要だとしますね。“私は です ひとりの少年”とは書かないでしょ。“私はひとりの少年です”と書く。そうすると、“この単語=この意味”というのがわからない。“私はひとりの少年です”だと「どの“単語”が“少年”なの?」と聞いたとき…え?!…そうすると般若心経になっちゃうんです。言葉の価値がわからない。ことばひとつひとつの重さというか軽さもわからない。もちろん日常に喋ってるわけじゃないので、全部のことを網羅するのは大変です。所々わかってもらいたい=伝えたい…客席にドイツ人がいたとして「皆さんのドイツ語は非常によく通じました、心を込めて歌っていることがわかりましたよ。」と言ってもらいたいじゃない。

○ 465 【schö - nen】 “schö - nen”は、次(“See - len,”)がpだという準備をしないように。次の小節がpだよという予感をしないこと。466小節からスグにpなの。オーケストラもpにはしないと思う。次から伴奏が三連音になりますよね。そこからpになるわけだからここでは準備しない。

● 472 【Ga - ben〜】 “Ga - ben”や“schö - ner”は一つの言葉の間に休符があって短くなりますよね。それが極端に短くなって“ガ…ベン シェ…ネル”と歌ってらっしゃる方、もう少し“ガァ…ベン シェ〜…ネル”つまり“Gaben”や“schöner”がひとつの言葉だと思って歌って。今だと皆さんのは4つの言葉に聞こえるんです。“Ga - ”のほうが“ben”より少し長めなんです。“schö -”のほうが“ner”より少し長い。“Ga - ”のほうが“ben”より強くて、“schö -”のほうが“ner”より強い。“語幹 - 語尾”“語幹 - 語尾”で。それをみなさんは般若心経、木魚が欲しくなる（笑）。みんな強さが同じだったんだ。……よし! とっても良くなったから記憶していて! （笑）。“6 , 4”“6 , 4”か“5.5 , 4.5”“5.5 , 4.5”でいって。“8 , 2”じゃ極端すぎる。

● 482 【Nehmt die〜】 …皆さん、歌う出すそこはそんなに強くないんです。でも歌い出したら即cresc.してください。みさんの譜面に“<”と書いてなかったら、書いていたほうがいいです。cresc.という文字が書いてありますね。cresc.というヨコモジだけだと、みんなクレッシェンドしないんです。図形が書いてないと。

♦ 483 【Ga - ben, die〜】 “ガーァベン ディ…”って聞こえる。“ガーァベン　ディ ガーァベン”（“die Ga - - ben,”をつなげる）。(487も同様)

◇ 489 【schö - ner】 ソプラノ、ほとんどが“シェー”に聞こえる。“シォ(=ö)ーネル”。忘れないで。もっと口を“o”にしてね。

♡ 489 【schö - ner】 アルトは大丈夫だった。

● 490 【Kunst, froh die〜】 “froh die…”から読んでみて。…はい! 乗り遅れないように。「ここは人に任せた」なんてならないで。最初に言ったこの曲の特性、みんな縦が揃っているんです。……“froh die” “Ga -ben, die”じゃなくて、“die Ga -ben, ” “die Ga -ben, ”。そう思って。

○ 490 【Kunst, froh die】 ちゃんと巻き舌は巻き舌。“froh…”。全パート、“Freu-de!”の“フロ…”を思い出して!

★ 490 【お話し】Fantasie=幻想曲といいますよね。ドイツ人はとっても素晴らしいとき、「ファンタスティック」、もうひとつFantasieには“とりとめのない”というそんな意味もあるんです。この

Fantasieはエンディングのコーラスはしっかりしています。最初はピアノが長くて眠くなるところがありますけど、そこは形が整っていないんです。そしてある意味、“即興的”“自由な発想”、そういったものもFantasie。この意味もそうなんです。…で、皆さんは“無秩序”にはならないでね。

○ 494 【Kunst.】 “Kunst.”の“…st.”。皆さん“クン”はちゃんと言うんだけど“…ストゥ”は? そこはちゃんとハッキリ言ってね。次はお休み(休符)なんだから、ちゃんと言えますから。

○ 501 【Ga - ben schö - ner】 “schö - ner”、“ショ(=ö)ーネル”。

● 514 【-〜】 ミのフラットがナチュラルになって音響が増すところがあるじゃないですか。聞かせどころじゃないですか。ところが残念なことに“Kraft”の“クラァーー”で伸ばしてるところで“クラァーー”で終わっちゃう人が多いんです。ちゃんと最後(515)は“…ft”って言わなくちゃ。なにを怠けてるかというとね、伸ばしてきた音符の最後(515)に“-ft”と書いておけばいいんです。カナで“…フトゥ”でもいいんです。それで“-ft ver-mäh---len,”。2度ありますよね、チャンス(574)がね。…あんなにffで歌ってるのに、ほとんど語尾が聞こえないんだもん?!

● 547 【Nehmt die〜】 ここもさっきお願い(482)したように“く”を書いておいて。pで歌い出すんだけど、すぐに“く”の絵を書いて。そうしないとcresc.の文字だとなかなか…

● 570 【Kraft〜】 “クラぁ〜…”じゃなくて、できるだけ巻き舌で“クララアー”…。

○ 579 【lohnt dem】 この前、“mäh--len,”と歌ってきて、ここに“lohnt”があります。このタイミングで次の1拍目から続いているというのはココだけなんです。みなさんはココで出そびれてるんです。みなさんは“Kra---ft”の大音響のときに安心しちゃうんだ。“lo…”を発音するとき、“ゥロ…”。「第九」のときの“Lau-fet,”と同じ。ここはエンディングの始まりですからね。

● 592 【Göt -〜】 “Göt --- ter - Gunst.”。ここは語幹・語尾とらわれず「第九」の最後みたいだと思って。

♦今日は雨の中、運動会をやっていましたね。子供たち…おつかれさま。
♦いよいよ“あんぷ”と“券売り”の二十苦です。どちらも頑張らないと〜。人目を気にしていられませんね。
♦なかなか出席できなくて申し訳ありません。(KuniKuni)
♦長井先生、おかげで、箇所箇所での集中練習ができました。練習不足の私にはとてもありがたく、今後のはずみになりました。(Chocco)
♦ヨーロッパの話から練習に入り、とても歌いやすくなりました。外は雨が降っていますが、この小ホールは“晴れ”を感じさせる合唱の響きで気持ちが良かった。(m♪)
♦長井先生、今年もご指導ありがとうございました。ご指導「Fantasieとりとめもなく形式みたいにならないように」とかドイツのボンやフランスのパリの話もおもしろかったです。楽しいお話を含めていい時間を過ごしました。
♦長井先生のご指導に喝を入れていただきながらも楽しい時間はあっという間に学んだ事を忘れず励みたいと思います。(プンちゃん)
♥"午前中は小学校の運動会でしたが、途中でグラウンド状態が悪くなり中止でした。おかげで13時か

らの練習に間に合いました。長井先生のご指導、今回1回のみですよね。しっかりしなければ。 " (メダカのおばちゃん)
♥所用で途中で帰らせていただきます。長井先生のご指導はたのしいです。
♥長井先生、エネルギッシュなご指導、ありがとうございます。言葉の意味を考えながら心をこめて歌いたいと思います。(スピカ)
♥勉強になります。ありがとうございました。今日の教えをしっかり体にしみこませてベートーベンの音楽を表現し、楽しまねばと思いました。
♥長井先生のレッスンは刺激がいっぱいでいつもに増して張り切りました。暗譜がまだまだです!! (初心者)
♥なかなか練習に参加できず…子どもの学校、自分の学校、仕事など参加できない理由にはなりませんが、がんばって本番を迎えたいと思います。歌っている時は楽しいです。
♥今年は欠席ばかり続いて心苦しく思っています。残りはがんばらなくちゃー（本当に申し訳ありません）。(ねずみバーバ)
♥楽しい時間でした。いつも同じところを注意されて、なかなか直らない私たちです。少しでも注意されたところがきちんと歌えるよう、努力あるのみです。
♥長井先生の講義は面白くて勉強になります。今日は用事があって遅れたけど、これて良かったです。
♥長井先生のご指導、元気が出ます。ドイツ語の発音、意味のまとまりとしても歌い方、ふだんいいかげんにしている所を再確認できました。ありがとうございました。
♥おもいっきりうたってがんばりました。
♥長井先生に注意される所はいつも同じです。このことに気をつけて意識して歌いたいと思います。(Kiri yan)
♥長井先生のご指導で新しい発見や再発見をすることがたくさんあって、貴重な練習になりました。
♥とてもわかり易く本番のようにうたえました。ありがとうございました。(ヨッチン)
♥長井先生のすばらしい楽しいご指導、ありがとうございました。
♥出ない声も出て、不得手な子音(K,f,W)も出来たという不思議(!?)(うた子)
♥今日は本当にすばらしい練習をさせていただき，長井先生ありがとうございました。雨降り等なんのそのでした。
♥長井先生のご講義は歌が下手でもすっかり先生のペースにはまって楽しさいっぱいだった。(Hamu-Star)
♥長井先生ありがとうございました。具体的なご助言で大変分かりやすかったです。(あぶこ♪)
♥少し風邪気味で心配したけど，長井先生マジック(?)で歌えました。もう少したくさん出席してほしいですね。(leoのママ)
♥長井先生のご指導はとてもよくわかりました。これを忘れないように頭において練習いたします。有り難うございました。
♥第九の練習日は最優先にしていますが、身の回りのごちゃごちゃにまきこまれて、今年はもう3回休みました。反省しています。それにしても長井先生はスゴイ。しびれる。
♥長井先生の素晴らしいご指導、自然に引き込まれ、ポイント（発音）が分かりました。忘れないように歌いたいです!!
♣長井先生の指導、初めて受けたのですが、分かりやすくあきさせない指導で、とても為になりました。(アリ)
♣残り少ない練習日。大先生の指導は何よりのことです。
♣長井先生の細やかな（先生にとっては細やかではないかもしれませんが）指導、ひとつずつでもクリアしていきたいです。今日はおつかれさまでした。
♣さすが長井先生!! オーラがちがう!! ツメのアカでも少しほしいよぉ〜! 長井先生だとついついはりきってしまいます。
♣長井先生のご指導、とても勉強になりました。第九の奥深さ、楽しさをあらためて認識しました。のど元過ぎれた何とやらにならないよう、肝に銘じて歌います。
♣長井先生の強くて優しいご指導、大変勉強になりました。(Ryo)
♣ソロとコーラスでは自分の声の聞こえ方が違うもんだと実感しました。ハーモニーの輪の中に身を置くのは気持ちのいいものですね。(K.C.)
♠はやり原点に返って緊張して学習できたことが大変良かった。(がみchan)
♠初めてだったので、音程が全然わかりませんでした。
♠長年歌ってきても、まだ気づかされる直接指導の内容…心して憶え、さらにレベルアップを図りたいと思います。(引っ込み爺やん)

@長井則文先生の指導　（11月5日：第九）

その付近の注意…●総合・♦ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♤バス
★…お話

（ドイツ語ウムラウトの発音“ö”をカタカナで“ォ”と表記してあります。また、ほかの部分やパートの注意でも全体に関連がありますので、読み飛ばさないようにお願いします。）

● 238 【Freu-de!〜】 印刷を見ると、小節線の右に“Freu-”と印刷されてますよね。でも“Fr”は左側にきて“eu-de!”が右側にきて発音して欲しいんです。“eu-de!”がちょうど1拍目にくるように。……今、僕はあえてソリストのところを歌いました。で、ソリストの“Freu-de!”を聞いて“Freu-de!”と発音を始めると遅れているんです。……いや、早けりゃいいってもんじゃない（笑）。フライングはダメ。それから“Freu-”と“de!”は“6”:“4”。“語幹”:“語尾”。

○ 257 【Dei-ne Zau-ber】 みなさんのは“Dei-ne(強)”“Zau-ber(弱)”なんです。僕は“Dei-ne(弱)”“Zau-ber(強)”。“あなたの”“魔力が”。「第九」は長々とあるんだけど、ここは象徴的なところでフランス革命を題材にしたらしいというところですね。貴族社会と平民との格差を神の名の下にひとつになった…ちょうどそこを歌ったんです。“御前の”“魔力が”そうさせた…という。ところが皆さんの歌い方は“御前の(強)”“魔力が(弱)”って聞こえるんです（笑）。ひとつの原因はテノールの音の上下、“Dei(↑)-ne(↓)”“Zau-ber(→)”だから。これが楽器だったらピアノのオクターブ上と下の同じタッチで音の大きさが違うということはありません。でも声は高い音(強)、低い音(弱)となりがちなんです。でも“Zau-ber”はただ“強い”じゃないんだよね。思いがこもってる。

● 260 【streng ge-teilt; al-〜】 “al---le Men-schen wer-den Brü-der,”と膨らんで。膨らんだ結果、“Brü-der,”が強いと思って。……いずれにしてもテノールさんは大変だけどね。ベートーベンがこうやった理由は唯一つ。人間の声だからというのは度外視して、ベートーベンが必要と思った音だから。本人はまったく声が聞こえませんよね。でも楽器だったら、なんていうことはない。それでもテノールさんも“al---le Men-schen wer-den Brü-der,”と膨らんで、“Brü-der,”が強く聞こえるように協力してあげて。残酷なのはわかってる。

● 262 【wer-den Brü-der,〜】 “Brü-der,”、これと関連して570小節、“Brü-der,”にはsfが書いてありますか? でもここには何も書いてありませんね。だけども体重、比重のかけかた…“Brü-der,”にかけて欲しい。案外難しいんです。なぜかというと、直前の“wer-den”のほうが音が高いから。“wer-den”なんていうのは助動詞だから、なんちゅうことはないんです。

● 263 【wo dein sanf-ter〜】 ここからの“wo dein sanf-ter Flü-gel weilt.”は優しく。“御前の柔らかい羽交のもとに”皆が守られているんだ…ということ。

○ 284 【Ja,】 せっかくソリストがこの前をしっかり歌ってくれたのに、“そぉだ…”（笑）じゃなくて、もっと集中して。

◇ 285 【Ja, wer auch nur】 ソプラノ、“auch”。“アオホ”。…“アウフ”って発音しないで。ほかのパートも気をつけましょう。次に“nur”というのが来るとね、前の言葉と“アウフ ヌル”ってなりやすいんです。言いづらいのはわかるけど、“アオホ ヌル”。…それから、意識として“ヤーベル”だと思わないで。“ヤー! ベル アオホ ヌル”。“Ja,”というのは“そうだ”という意味です。なにが“そうだ”なのかというと、この前の部分でソリストが歌ってきたことが“そうだ”ということです。

○ 288 【Er-den rund! Und】 “Er-den rund!”ってなんですか? “Er-den”というのは“土地”です。土地が丸いんだって。“rund!”は“輪っか”です。…“地球”。なんでそういうことを言うかというと、皆さんは今、“Er-den ru…”しか聞こえない。“Er-den rund!”。最後まで発音してブレスして。

● 289 【_ wer's nie ge-〜】 “nie”にsfが付いていますよね。大切な否定。どうしても神が定めてくれた輪の中に“決して”交わることのできない人…ということ。そして“der”にdim.が書いてありますね。dim.というのはココからpという意味ではないですね。ココからだんだん小さくしないさいということですね。それが皆さんは即! pになっている。だんだん小さくしてよ。いきなり小さくしないで。

○ 291 【wei-nend sich aus】 どのぐらい“wei-”の発音で下唇をかんでいますか? “ヴァイネント”。“w”ですよね。“b”ではありませんよね。これが“b”になると何でしたっけ…? 一昨年、指導で料理の名前を言ったじゃない。アイスバイン。豚のすね肉、おいしいですよね。だからこの場所に突然“向こう脛”が出てきたらおかしい（笑）。“wei-nend”と“…d”がついてますよね。これは英語の“…ing”にあたるんです。“泣きながら…” 。ちゃんと“…d”をくっつけて。……（通して歌って）今だと感じが出ていた。“ヴァイ”だと発音に時間がかかるんです。長い子音なんです。これが“バイ”だと短いんです。たくさん長く発音して“泣きながら…”というニュアンス。

○ 313 【Küs-se gab sie】 さぁ問題の場所。ソプラノは“キュ〜ゥセェ〜”って言ってませんか? “Kü…”。坂本キュ…ってならないように。

♧ 318 【Wurm ge-ge-ben,】 “…-ben,”の音程が届ききらない。音程をビシャっとはめてね。

♧ 320 【steht vor Gott,】 “steht”は“シュティート”って言ってね。“ステー…”にならないように。

● 329 【vor〜】 “vor Gott.” は、個人的にずっと続けなくていい。そうしないと“vor …”でエネルギーを使い果たして“… Gott.”が弱くなるんです。“vor”、“Gott.”と改めて言わせる指揮者もたくさんあります。なぜかと言うと、“vor”にはスタッカートが付いているんです。皆さん今、スタッカートつけて歌ってる? “vor Gott.”とつなげて歌ってるでしょ。「分けて歌え、そしてGott.のほうにエネルギーをかけろ」ひょっとしたら(現田先生)そうおっしゃるかもしれない。

○ 330 【Gott.】 …現田さん、長い? リハーサルが短くて、本番が長いんだ。

○ 411 【Lau-fet,】 “La”の発音には長さがあります。“ゥ_ラ…”。

○ 413 【eu-re_】 “eu-re_Bahn,_”、“…オホイレ〜ェーバハァ〜アン…”が“…オ〜ォイレ〜ェーバ〜ァ〜アン…”って歯車のギザギザがとれてしまわないように、ちゃんとリズム出しましょう。

○ 417 【Held zum_】 “Held”と“zum_”の間、“ヘルツム”とくっつけないで。“Held”と“zum_”の間は休符ですから“Held”は別にちゃんと言って“zum”と出てください（(420〜421)は“ヘーェルツツム”と“…ld”を省略しないできちんと発音しましょう）。

● 430 【Sie--〜】 “Sie--gen,”は“…ゲン”って言わないで。“…ゲェン”。“ゲン”だと音が浅いんです。“Sie-”は“ジー…”って言ってるでしょ。そのあと“ゲェン”にしてね。

● 543 【Freu-de,〜】 歌い出したときにfがひとつ書いてありますね。そして“al-le”(566)にffが書いてあります。そして、このひとつのフォルテとふたつのフォルテの差をつけていらっしゃるかは…わからない。今からそれを確かめたい。まったく同じなのか、初めっからffなのか。ちょっと最初は加減目に出てきて…あるいは本番を何回も経験しているベテランの人、そうやって意識してるけど、オケ合わせが始まると、あおられちゃって全部ffになってしまう…。そなってる人は“al-le”(566)

のところからfffにしてくださいよ。…で、ベースが一番表現しやすいんです。“al-le”(567)と音が上がるところからffになりますから、印象的に歌って。

● 548 【aus E-〜】 “E-ly-si-um,”。“エリォ(=ö)ズィウム”。“エリィージ…”って、特に入れ歯だと（笑）。

● 586 【Brü-der,〜】 “…ü-der, wo…”のところで合わなくなってますね。“Brü-der,”の後ろでブレスする人がいるかもしれない。それナシ!ね。じゃ、どこで吸ったらいいか? 足りなくなったら吸って!（笑）。

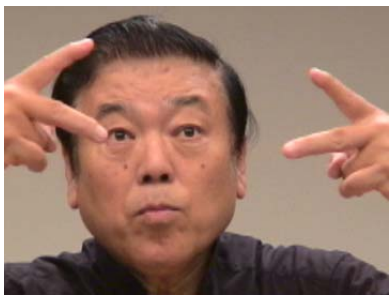
○ 586 【Brü-der,】 “…ü-der,”のところで合わなくなってますね。

● 596 【schlun-gen, Mil〜】 “シュルンゲン”じゃなくて“シュルン_ゲン”。“オォ〜ネェーン”じゃなくて“オ_ネェン”。極端にスタッカートじゃなくて、“und der Che-rub steht vor Gott,”(321〜)がありますね。これは2分音符にスタッカートがついてる。ここも2分音譜にスタッカートがついてる。…若干のバウンドをしてください。

♠ 602 【Welt!〜】 バスの方でこの部分、音程が高いと思われる方、「高くて参加できねぇよ、だったらオクターブ下げて参加しよう…」と参加したらダメ! オクターブ下げるというのは音が全然違います。その部分は口パクで勇気ある撤退をしてほしい。

● 602 【Welt!〜】 今の男声から女声への橋渡し、“Welt! Se…”。次の女声の“Se…”は男性が歌うわけではないですよね。男性の“Welt! ”を切るのが早すぎると女性の“Se-”までに時間が空いちゃう、ベートーベンの書いている譜面に反してしまいます。

○ 615 【muß ein】 “muß”、その“m…”はいっぱい言って。



♧ 631 【Ihr_ stürzt】 “＜＞”過激すぎる。pが膨らんで萎むわけですから、p＜f＞pにならないようにね。……“stürzt”（笑）、僕まだそこは振ってないよ!?（早すぎ）。“シュシュシュ…”（笑）。これはピアノのときは感じないけど、オーケストラといっしょだと凄くゆっくりなんです。“stürzt”は6つ文字があるのかな、音符は1つに対して活字が6つあるんです。それもあわてないでいいですから、ちゃんと言う時間はありますから。

○ 632 【nie-der,】 “-der,”は“出ない”の（笑）。“ニーデル”。“nie”が大事。

● 633 【Mil-li-〜】 即! cresc.。(635〜)も。

○ 635 【Ah-nest】 “Ah-nest”というのは“予感がする”という意味です。pで出ますよね。その“A…”に対して未知との遭遇でもなんでもいいや…あのラストシーン…そのように向こうから創造主が現れるんですよ。そんな場所ですから、“ア〜ァネス…”そんな漫然と出ないで。期待感、予感で出て。

♧ 636 【du_ den】 テノールさんだけ、そこはリズムが違うよね。それではみ出さないで。“ドゥーーーゥデン”がはみ出さないようにね。

♡ 654 【---nen.】 ???…堕ちた天使にならないように。これもよく言うんだけど“woh-nen,”の“…n…”の発音はしなくていいですからね。子音は言いません。音程に関わるから。母音を“o”から“e”に変えるだけ。“n”はテノールが言ってくれますから。

♧ 654 【woh--nen.】 “…o…”の響きはこっち(頭)に来てるでしょ。そして“-nen,”と沈むから、“…e…”を“…o…”よりも口が横にならないように。

♡ 655 【Seid_ um--】 そんな水まいたように（笑）。“…ザ”。いっぱい溜めといて。

● 655 【〜】 フーガの所は初心者、なかなか暗譜がしきれないだろうから、ベテランを頼りに暗譜をしてくださいね。聴いている立場から言うと“Freu-de, schö-ner Göt-ter-fun-ken, Toch-ter aus E-ly-si-um,…”というレガートなメロディのテーマと、“Seid_ um--schlun-gen, Mil--li--o-nen!…”、“ザッザッザッ…”という重いテーマが一緒になって一体的なフーガができるわけです。だから“Freu-de, schö-ner Göt-ter-fun-ken, ”が“ぴょんぴょんぴょん”的な歌い方にならない。“Seid_ um--schlun-gen,…”も3,4小節の短い部分にしか出て来ない事もありますが、その部分も怠らないで。2つのキャラクターを真逆の表情だと思って歌ってください。どっちを自分たちのパートが歌うときも、これらのキャラクターをしっかり出してくださいね。

♦ 718 【Welt!_〜】 高い音ずーーーっと伸ばすところ、ここの最後(726)はちゃんと“…lt!”って言ってますか? それでブレスをすると、急に強さがよみがえってきて“der gan-zen Welt!”と強くなるのはなんでだろう? それはみーんなで長々ブレスしないで歌っているから、そこで強くなるんだ。この間はどこでブレスしてもいいから。それでブレスをしてふたたび出そうとするときは強めになりがちなんです。“エー…エ!!…”と。カンニングブレスの後は絶対アクセントをつけて出ないように。

● 730 【Ihr stürzt〜】 凄く遅れるな? ファゴットが伴奏で吹いているところ。これはとってもインテンポで吹きますからね。管楽器奏者が「現田先生! ベースに合わせますか? 指揮者に合わせますか??」って（笑）。…6拍目が遅れるんです。“Ihr stürzt nie--der,”の“stürzt nie-”がね。…それはこの前までグワーって歌ってきて、ここで数学的なところに戻ってくるわけね。そこに皆さんが乗れていない。さきほどの631,632小節はゆっくりやっていただきました。ここは管楽器がおかまいなしにインテンポで吹きますから“…stürzt nie-”が収まるように。“…--der, Mil--li-…”の“…der Mi…”なんて言えてもいえなくても聞こえませんから、“…デルミ…”。……はい! 短い!! “Ihr”…“nie-”…“Mil-”は2分音譜ぶん歌って。……まだ“stürzt nie-”が遅い!!

♣ 735 【du den〜】 この前、ちょっと低くて、出が嫌だろうけど、“du den Schöp-fer,”あたりで膨らみ加減に歌わないように。声がかすれている。

○ 749 【ü】 “ユゥーベル…”って聞こえる! “ユ(ü)ーベル”。

○ 762 【-nen.】 ここの“-nen.”の“-n…”も(音程を下げないために)あんまり発音しなくていいからね。

● 795 【Dei-ne Zauber,〜】 ここからただの小声で“Dei-ne Zauber, …”とやると、出たか出ないかわからない!? 特にソリストが大きく歌っています。そこにそうやって出ると存在感がない。だったらどうしたらpで存在感が出るかというと息で“Dei-ne Zauber, …”。最初だけ息で、そして声で“dei-ne Zauber bin-den_wie-der, bin-den_wie-der,…”とそういうふうにして。……どこにcresc.って書いてある? 歌い出すと同時にcresc.。皆さんのは遅いんです。

● 810 【Men-schen wer-den〜】 僕が今、“＜＞＜＞”と指示してきた株の取引やってるみたいに…という(音の強弱)のを暗譜のときに身に入れてくださいね。ココ、やたらとベートーベンが書いていますよね。それを完全に身に入れて歌ってください。おそらく本番の現田先生は全体の指揮をそうはなさらないでしょうから。

♥ 818 【Dei-ne Zau-ber,〜】 ここ“Dei-ne Zau-ber, dei-ne Zauber”の部分の暗譜を間違えないように。初心者の人も“Dei-ne Zau-ber, ”のところの最初のとき(791)との違いね。

● 818 【Dei-ne Zau-ber,〜】 最初のとき(791)もそうだったんだけど、“ダイネ　ツァーベル…”って聞こえる。“ダイネ ツァォベル…”。早口だもので“…ツァーベル…”ってなってる。

● 863 【_〜】 全パート、“We____lt Brü-der!”です(“Brü-der!”の直前には“lt”)からね。“_lt Brü-”ですからね。……違う、“_lt　Brü-”と一段落つかないように“エーーールトブリュ…”。

● 865 【ü-berm_〜】 ここからソプラノとテノール、“ü-berm_Ster-nen-zelt_ muß ein lie-ber_”のリズムがちゃんと!明確に聞こえるように。“イィ〜ベェ〜ルム シュテェ〜ルネェ〜ン…”じゃなくて“イッヒ ベェヘルム シュテーヘネーン(←注:極端に表記しています)…”と正確に聞こえるように。

○ 915 【Toch-】 “To…”は、日本語の“トォー”とは思わないで、“To”。泣いて血を吐くホトトギス!（笑）。

● 916 【-ter aus E-〜】 “E-ly-si-um!…”は急にpにしようね。

★ 920 【お話し】皆さんの本番の明くる日が、僕が東京でも関わっている「第九」の本番なんです。いい意味で競い合いましょう。ありがとうございました。

●編集後記

次回は**10**月**26**日（日）13:30〜16:30

前回からのインターバルが短かったため、ビデオからのモジ起こしが少々忙しかったです。長井先生の顔、特に口元は文字では再現できなかったニュアンスを読み取ってください。そして顔の向きはそのパートに対するご注意をされていると判断してください。また、前回の「第九」だよりに掲載している今までの指導とあわせて活用していただき、本番の出来を寄り良いものとしてください。【munenori@horita.jp】